

市政研究所だより NO.7

豊中市政研究所 TIMR (The Toyonaka Institute for Municipal Research)

〒561-0802 大阪府豊中市曾根東町 3-7-1

TEL:06 (6862) 2290 FAX:06 (6862) 2292

ホームページ: <http://village.infoweb.ne.jp/~timr> E-mail: fvbk5863@mb.infoweb.ne.jp



MENU

講演会開催のおしらせ	1
■ 研究員レポート	2
■ データバンク	3
■ 機関誌「ビジョン22」	4
■ 事務局から	4

講演会『どうなる 21 世紀家族の姿』

市政研究所では 9 月 29 日午後 2 時から千里中央の千里ライフサイエンスセンター 5 階のサイエンスホールで

「どうなる 21 世紀家族の姿」— 家族福祉の実現と「公・共・私」の協働— と題した講演会を (財) 大阪府市町村振興協会と共催で開きます。

講師は大阪女子大の井上真理子教授。教授は、『いま家族が“揺らいで” いると言われている。世帯規模の縮小は、その指標の第一に挙げられ、特に、高齢者単身世帯・夫婦のみの世帯が増加している。離婚率上昇や未婚率上昇、家族の個人化等も“揺らぎ”の指標である。社会保障の抑制の支え手として家族を位置付ける「日本型福祉社会論」と異なり、「家族福祉」では“揺らいで” いる家族をサポートし家族・個人の福祉向上が目指される。“公・共・私”の協働による福祉多元主義の下、多様なサポート・ネットワークに囲まれて 21 世紀家族は成立するのではないか』といわれる。

対象は一般市民、府内市町村職員、定員 130 名。保育 (1 歳～就学前) もします。参加費は無料です。多数のご参加をお待ちしています。

平成 10(1998)年度決算認定と研究・広報事業が理事会で承認

平成 11(1999)年度第 2 回理事会が、6 月 29 日市政研究所で開かれ、平成 10(1998)年度の事業報告と収支決算について承認されました。続いて、本年度の調査研究事業、機関誌第 3 号についても論議が尽くされ、テーマも決定しました。その概要は次のとおりです。

■平成 10(1998)年度 事業報告

1. 調査研究事業

□研究テーマ

- (1) 「公会計改革—豊中市への導入試論」
- (2) 「地域コミュニティ組織に関する基礎調査」
(別冊 アンケート調査その 1=市民活動団体、その 2=自治会・町内会)
- (3) 「住宅更新と居住者変動に関する調査研究(1)」
～豊中都市圏ゾーン地域を対象に～

上記の 3 テーマについて、「調査研究報告書」を各 100 部印刷して豊中市、関係機関等に配布。

2. データバンク事業

- ・ 文献、資料のデータベース化 4,500 点
- ・ 各種の情報媒体での公表
- ・ 日経テレコンでの情報検索

3. 広報出版事業

- ・ 機関誌「TOYONAKA ビジョン 22」第 2 号の発行、1,000 部。テーマ“次代を見据えた都市計画づくり”
- ・ 講演会の開催
- ・ セミナーの開催と講演録発行
- ・ 「研究所だより」4 回発行
- ・ ホームページの開設 (平成 11 年 2 月 21 日)

4. 人材育成

学会、各種シンポジウム・セミナーへの参加

5. その他

・ 政策研究所連絡会 (府内 5 研究所加盟) への参加

平成 10(1998)年度 収支決算

収入: 5,160.8 万円 支出: 4,674.5 万円

支出の主な内訳

事業費	調査研究費	534.8 万円
	理事会費	64.2 万円
	広報出版費	240.7 万円
	データバンク費	112.8 万円
管理費	一般管理費	260.4 万円
	人件費	3,461.4 万円

○平成 11(1999)年度調査研究

次の 3 テーマについて研究委員 (学識経験者) と市職員、コンサルタント等が参加する研究会を発足させ、研究に取り組んでいます。

- ① 「とよなか市民の暮らしと意識」— 生活者の視点から—
- ② 「住宅更新と居住者変動に関する調査研究(2)」～千里地区と市内計画的住宅開発地を対象に～
- ③ 「豊中市における公共建築物のライフサイクルコストの研究」～計画的・効率的な行財政運営を目指して～

とよなか市民の暮らしと意識 —生活者の視点から—

この夏、市から「豊中市子ども総合計画」、「介護保険事業・老人保健福祉計画策定のための調査報告書」が相次いで発表されました。報告書では、本市の人口減少、少子・高齢化現象が当事者だけではなく家族や生活環境全般にわたって、静かにかつ急激にインパクトを与えつつあることを明らかにしています。

21世紀初頭は、高度情報化、国際化、地球化、環境への関心、福祉社会、分権社会など…がさらに進展するとともに、生活者のニーズや価値観、ライフスタイルの多様化が一層進むともいわれています。このようにみると、これからの都市は、複雑で混沌とした社会が想起されますが、果たしてどうでしょうか。

ここに昭和54（1979）年と昭和61（1986）年に策定された市総合計画書があります。目次を見るだけでも、わずかにこの数十年間で、施策の位置付けられている文脈が変化・分節していたり、当時想定されていなかった新たな文脈が登場していることがわかります。例えば、現在、環境政策で語られる公害と廃棄物は異なる文脈上に存在し意味づけが異なっていましたし、介護保険制度で多元的主体の一つとして注目されて

いるNPOなどは、コミュニティ団体や福祉民間ボランティアに辿っていくことができるものの、現在ほど公共・公益の一翼を担うという役割は見当たりません。このように、過去の社会や当時の価値観を記述した資料から、現在を解釈するだけでなく、未来へ向けての関係付け（文脈）を読み取り、何らかの示唆を得ることができそうです。

今回の調査研究では、さまざまな価値観を持った生活者（市民）が共感しあい、どのように関係性を形成しながら生活課題に向き合い、新たな文脈と意味を創造しようとしているのか、（きたのか、しようとしているのか）に注目してみたいと思います。行政資料やデータで読み取れない部分は、生活誌的なアプローチで補完しながら、市民の価値観や生活様式をできるだけ丹念におさえ、福祉（サービス提供主体）、環境（ごみ）、情報（コミュニティ情報の共有）の3つの今日的テーマとクロスさせることで、具体的な提言につなげていきたいと考えています。現在、関係セクション・機関、市OB職員の方々に聞き取りを行っています。ご協力をお願いします。（本注）

市街地と住宅と人口とコミュニティ

昨年度は、都心ゾーン地域での住宅更新と居住者の変動について調査しましたが、今年度は、同様の切り口で千里ニュータウン地区を見てみることにします。

少し、都心ゾーン地域での調査結果を復習すると、世帯数は増えているのに人口微減、高齢化、30～40代の年齢層が転出しているという状況でした。住宅については、住宅戸数は30年間で倍増しているが、その増加分はそのまま集合住宅の新規着工と重なる。従って、戸建住宅戸数の増減はない。30年間で戸建住宅はほぼ半数程度更新している。中古住宅での流通は少なく、建替えて新築で売買される傾向が非常に強い。その際、敷地分割される場合もよく見られる。

こうした人口・居住者と建物の変化を併せて立体的に見ると、①新規着工された集合住宅への入居者

の半数は、隣接あるいは徒歩10分ほどの地域からの住み替えである。残りの半数は市内外からの住み替え、転勤などである。②戸建住宅が戸建住宅として建て替わる場合、そこへの入居者の大部分は市外部からの転入である。転勤は極めて少ない。敷地分割された場合、値段との関係か、若中年ファミリー層の入居が目立つ。

大まかに言えば、「戸建て住宅が集合住宅に転換することで新しい住宅供給がなされ、それがこの地域からの子世帯の独立や地域内住み替え、外部からの転入の受け皿として機能した。」という状況です。

ところで、下線部分は千里ニュータウン地区にはあてはまりません。千里ニュータウン地区での住み替え、子世帯の近居や新規参入者の動向はどのようになっているのでしょうか。このページで随時、調査結果を報告します。（藤家）

豊中市における公共建築物のライフサイクルコストの研究

—計画的・効率的な行財政運営を目指して—

上記のテーマで今年度研究に取り組みます。7月から8月までは研究会メンバー（研究委員、関係行政職員）探しに時間がかかり、8月31日ようやく第1回目の研究会を行いました。

ライフサイクルコスト（Life Cycle Cost、LCC）とは、企画設計費、建設費、運用管理費および廃棄処分費にわたる建築物の生涯に必要なすべてのコスト、生涯費用のことです。このうち保全費、修繕費、改善費や運用費（光熱水費等）を含む運用管理費は一般に考えられている以上にコストが大きく、建設費の4～5倍に達する例もあるそうです。ライフサイクルコストの考えを導入することにより、長期的視点にたった適切かつ経済的、効率的な建築物の維持保全に向けた見通しをたてることができます。

研究会では、自己紹介のあと、豊中市の現状ということで、企画調整室、財政課からは、施設配置計

画や建築物にかかる予算査定の流れ、建築課、教育施設課からは、施設修繕計画、施設関連経費決算の年度推移等を報告していただき、抱えている問題点などを議論しました。施設配置計画と予算編成のリンクがうまくできていない、投資的経費の比率が高すぎるのではないかと、適切な施設維持ができていない、などの意見が出ました。決算の年度推移からは、財政難の中、補修工事費の落ち込みが顕著に表れています。単年度ごとの一件査定を経費であるがゆえ、どうしても歳出カットの中心となってしまっています。

しかし、補修の必要性が消滅したわけではないので、後年度につけを回す結果となっています。平時からのライフサイクルコストの手法を取り入れた行財政運営が望まれるところです。（太原）

データバンク

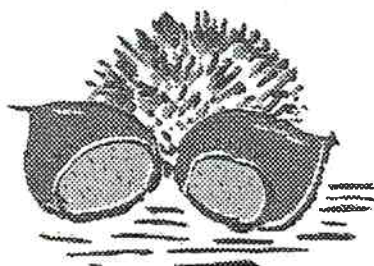
食欲の秋、スポーツの秋、そして、読書の秋！

『データバンク通信』を始めて、今月で半年になります。徐々にではありますが利用者も増えてきました。【たぶん（・_・；）】引き続き、皆様のご利用をお待ち申し上げます。

なお、次号（『データバンク通信』9月号）は9月10日発行予定です。

さて、まだまだ暑い日が続いていますが、学生は新学期も始まり、「ツクツクポーシ」の鳴き声と共に去っていった楽しかった夏休みの余韻に浸りながら、秋を迎えようとしています。「食欲の秋」・・・食べ物がおいしい季節ですね。収穫祭などの行事も楽しい季節です。「スポーツの秋」・・・涼しくなったので、適度に汗をかくことができます。ハイキングや公園の散歩など、健康にいいと近頃はやりのウォーキングをしながら紅葉を楽しむのもいいでしょう。そしてなぜか「読書の秋」・・・涼しいから集中できるということでしょうか？「読書週間」なるものも（少し先の話ですが）10月末頃に設定されています。『広辞苑』に「読書週間の普及と読書生活の向上を図るために設定された週間」と書いてありましたが、なぜ秋なんだ？という気がしてなりません。春でも

夏でも秋でも冬でも、本を読む人は読むし、読まない人は読まない。極端な話、秋だけ本を読む人がいたとしたらそれはそれで奇妙な感じがしませんか？とはいえ、書店の店頭で「読書の秋」と書いた帯のついている本が並んでいると購買意欲をそそられるのは私だけでしょうか？（山下）



只今 Vol. 3 編集中!!

特集：『地域単位の政策—計画—まちづくり ～地域力再生の視点から～』

豊中市は都市として成熟し、高齢化に向かいつつありますが、こうした都市では、多様な市民生活のニーズを的確に捉えること、地域の特徴を捉え、地域の事情に応じたまちづくりが求められます。また、近年、「協働」という言葉が盛んに使われています。まちづくりに関わる様々な主体の役割を明らかにし、まちづくりの方策・将来像を市民と共有することが求められます。

特集ではまず、都市コミュニティが専門の社会学者奥田道大氏に解題していただいた後、ソフト、ハードそれぞれの課題、論点整理、各地の事例報告をします。

また、昨年秋の講演会『都市居住・コミュニティ・家族 ～その変容と人口減少下でのまちづくりの新しい枠組み～』（大江守之氏も）講演録として掲載します。ご期待下さい。（藤家）

事務局から

『最後の楽園』に行ってきました！

この夏『最後の楽園』といわれているタヒチのボラボラ島に行ってきました。青い空・すんだ空気・美しい海が広がり・夜空には満天の星、まさしくそこは、パラダイスそのもの。

ある日、無人島などを回るツアーに参加した時のこと。沖合のちょっと浅瀬で、いきなり船が止まり“Swimming Time”の一言、と同時に次々と海へ飛び込む外国人の人達。「えーここで泳ぐの」と、おろおろする私に“Swimming Ok?”とタヒチアン的一声。指でほんのちよっとと示しながら“a Little”と応える私に、優しい表情で、「Ok だいじょうぶ」

と言いながら私の手を取りいきなり海原へ。太陽の光がさしこみキラキラと輝く海の水・悠々と泳ぐ美しい魚たち・珍しいサンゴに思わず時のたつのも忘れるほどでした。（ちなみにおじさんは素足でした。）

今回の旅で、美しい海を満喫する事ができたのは、優しくたくましいタヒチアンのおかげでした。こんなたくましいタヒチアン、丘にあがればウクレレを片手に美しい音色奏でる。彼らの優しさとたくましさ、あの島の美しさを守っているのではないのだろうか。（M）

40年になる千里ニュータウン

ダンボール15箱の資料整理

今年の夏はどうも天候不良だったようですが、九月の声を聞いても、残暑でなくて猛暑のようです。

研究所理事会では、「中・長期展望に係る研究の取り組みについて」4・5月に延べ4時間にわたる集中論議を重ねました。高齢化が進み、少子化の波が押し寄せる『千里ニュータウン』についてのテーマに論議が集中しました。やはり日本最初のニュータウンで40年近い歳月を重ね、豊中市が抱える都市問題研究のテーマとしては是非取り組むべきとの結論になりました。

豊中市の千里ニュータウンの担当部局は政策推

進部。研究所では、同部企画調整室に保存されているニュータウン関係書類の整理からはじめようということになりました。これらの関係資料は、分散保存されておりその数ダンボール15箱にのぼります。8月から仕事の合間を見てやり出すが、遅々として進まず何とか10月には完了したいと思っている。

何しろ、昭和30年代からの40年間という長いスパンの資料、その上案件ごとの縦割り資料ばかりです。この資料をどのように使いこなすかは、人間の知力しかないのではと思います。まずは頑張って整理するしかありません。（K）

